

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：イチジクの効率的な苗木育成法 (1)穂木の取扱いとマルチ資材の種類			
[要約] 採穂は、剪定後6日間以内に行う。それ以上放置した場合は、1昼夜吸水処理して穂木に用いる。また、さし床を黒ポリシートやワラのマルチ資材で被覆すると、さし穂の発根が促進され、苗木の生育が良好となる。			
キーワード イチジク 穂木条件 マルチ資材 挿し木 増殖			
実施機関名	主 査 農業総合研究センター・育種研究所・果樹植木育種研究室 協力機関		
実施期間	2006年度		

[目的及び背景]

現地におけるイチジクの苗木増殖は、挿し木で行われるが、数日間圃場に放置された剪定枝から採穂するケースもある。その場合、挿し木活着率が低下するといわれるが、その程度と対策が不明である。また、挿し木床に各種のマルチ資材を使うと苗木生育が向上するが、資材別の効果と要因については検討が不十分である。そこで、それらを解明し、適切な苗木増殖法を確立する。

[成果内容]

- 1 イチジクの挿し木における活着率は、穂木を放置し乾燥が進んでも6日間までは良好だが、それ以上放置すると大幅に低下する。そこで、採穂は剪定後6日間以内に行うのが望ましい(表1)。
- 2 6日間以上放置した場合は、穂木を水に1昼夜浸して挿し木をすれば良く、19日間放置した場合にも効果があり、高い活着率が得られる。また、活着した個体は、穂木の取り扱い法にかかわらず比較的良好な生育を示す(表1)。
- 3 マルチ資材でさし穂の発根が促進され、苗木の生育が良好となる(表2)。その要因は黒ポリマルチがさし床の高温条件、ワラマルチが高水分条件である(図1、図2)。
- 4 マルチ資材の比較では、挿し木の活着や地上部生育の促進程度、マルチ資材の敷設やその後の飛散防止の面から、黒ポリシートがワラよりやや優れる(表2)。

[留意事項]

[普及対象地域]

県下イチジク栽培地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 穂木の取扱い法と挿し木活着率及び苗木の生育

穂木取扱い	挿し木 活着率 (%)	苗木生育					
		枝径 (mm)	枝長 (cm)	根数 (本)	枝幹重 (g)	根重 (g)	全重 (g)
6日間	97a*	22.6	173.9	18.1	519.8	73.7	593.6
12日間	37b	22.1	155.5	20.9	485.2	79.0	564.2
19日間	7c	25.6	191.0	17.5	644.3	110.9	755.1
12日間+水	87a	21.0	156.7	18.1	492.7	85.8	578.5
19日間+水	87a	20.1	155.8	15.9	463.5	88.6	552.1
0日間	100a	21.0	162.5	20.7	453.2	90.8	543.9

日数：採穂後に穂木を放置・乾燥させた日数 水：穂木全体を水に1昼夜浸して吸水処理
 採穂日：平成18年3月8日 挿し木日：平成18年4月17日 挿し木活着率：平成18年8月1日調査
 苗木生育：平成19年3月8日調査 *：異符号間では5%水準で有意差あり（Sheffeの多重比較検定）

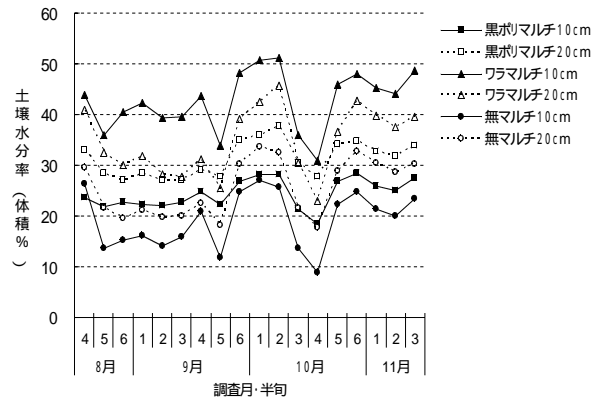
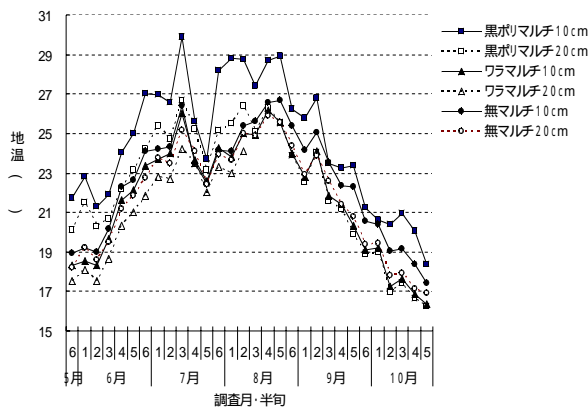


図1 マルチ資材と地温(深さ10cm及び20cm)

図2 マルチ資材と土壌水分(深さ10cm及び20cm)

表2 マルチ資材の種類と挿し木活着率及び苗木の生育

品種名	マルチ資材種類	挿し木 活着率 (%)	苗木生育					
			枝径 (mm)	枝長 (cm)	根数 (本)	枝幹重 (g)	根重 (g)	全重 (g)
樹井ドーフィン	黒ポリマルチ	80	22.0	159.5	17.9	396.3	68.2	464.5
	ワラマルチ	80	20.1	151.2	25.8	420.9	94.1	515.0
	無マルチ	87	12.5	93.5	11.9	196.3	36.0	232.3
ホワイトゼノア	黒ポリマルチ	80	18.1	129.0	20.1	350.4	112.6	463.0
	ワラマルチ	60	17.5	125.1	20.3	340.0	90.8	430.8
	無マルチ	80	12.3	90.4	13.1	171.9	62.7	234.6

採穂日：平成18年3月8日 挿し木日：平成18年4月17日
 挿し木活着率：平成18年8月1日調査 苗木生育：平成19年1月16~20日調査

[発表及び関連文献]

千葉県農業総合研究センター育種研究所：平成18年度試験成績書

[その他]